

すなお

令和7年6月号

発行所 天理教瀬戸路分教会

〒794-0007 今治市近見町4-5-10

URL <https://www.tenrikyo-setoji.net/>

☎ 0898-23-5004 責任者 二宮英治

発行日 2025.6.16 通巻 No.779



会長

教会の皆様、勇んでおつとめのことと思います。留守中、本当にありがとうございます。

いよいよラストの3ヶ月目を迎え、仕上げに向かい日々慌ただしくつとめさせていただいています。一期講師の経験はないものですから、毎日が初めてのことばかりです。先日、クラスの修養科生さんたちと布教実修にいかせてもらいました。年配の方々や車椅子移動の方々が約10名。30代までの方が約10名とクラスの年齢幅は19歳から89歳で、さまざま両極端な状況ですが、お互いが声を掛け合い助け合ってつとめさせていただきました。

まずは路傍講演、神名流し（よろづよ8首を3回）、そして個別訪問と盛りだくさんの内容です。でもこれは組係を中心に相談をした結果「ともかくやってみよう！」となり、当日私や副担任はその修養科生のサポートに回りつとめさせていただきました。それぞれが一人でやるには勇気が必要でしょうが、仲間がいるからどんどんと勢いでつとめてくれました。

若い修養科生は個別訪問のにおいがけも初めての人がほとんどですが、ともかくピンポンを押してくれました。これがおちばでつとめている修養科パワーなのかと感激しました。たかだか1時間の布教実修ですが、嬉しくなる姿を見せていただきました。最終結果は信仰している方の家に伺ったペアがあり、その方から「おさづけを取り次いでもらおうと近くの教会へ日参に行きましたが、留守だったので、おさづけを取り次いでほしい」という方に出会い、おさづけを取り次がせてもらったとの報告がありました。

今の社会の状況を見ると、なかなか一軒一軒の個別訪問は難しいと思いますが、それでも何もしないことから思えば先々に大きな違いが出てくると思います。この天理教の信仰は「無駄なこと、アホなこと、徳にならないこと」をさせていただき、不思議な働きを見せてもらっていますし、今までにいただいたからこそ瀬戸路があります。

人間の小さな計算や駆け引きを外して、教祖に凭れて通らせてもらうところに信仰の喜びをいただけたと思います。さあ、身近に悩み苦しむ方が必ずおられます。ようぼくの心の眼を開いて、まずはその方に声をかけさせてもらいましょう。



小さなやさしさ

田中 道則

ある日、保育園に陽都を迎えにいくとほっぺに冷えピタがつけてあり、先生から陽都が持っていた絵本を同じクラスの子がとり、おまけにパンチもお見舞いされたとのことでした。先生はその子によく言い聞かせて叱ったみたいでした。帰りの車で陽都に話を聞きながらいろいろその時の状況を教えてもらいました。（次ページへ）

その子は普段から暴れん坊で他の子たちともケンカをよくするみたいで、たまに迎えて会うお母さんも結構口調が荒く、その子なりに家庭でいろいろあるんだろうなと思いました。陽都に「きっと〇〇君は家でお母さんにきつく叱られて辛い時があるんじゃないかなあ」と話をしました。

すると数日後、先生から「陽都に『〇〇君をあんまり叱らないで』と怒られるんです」という話を聞きました。なんとも胸が熱くなりました。小さいなりに大人の話聞いて考え、保育園で頑張ってるんだなと嬉しくなりました。

子供の成長に負けないよう自分も成人の道を歩んでいこうと強く思いました。

逸話編【三つの宝】

ある時、教祖は、飯降伊蔵に向かって、「伊蔵さん、掌を拵けてごらん。」と仰せられた。伊蔵が、仰せ通りに掌を拵げると、教祖は、粿を3粒持って、「これは朝起き、これは正直、これは働きやで。」と仰せられて、一粒ずつ、伊蔵の掌の上にお載せ下されて、

「この三つを、しっかりと握って、失わんようにせにやいかんで。」と、仰せられた。

伊蔵は、生涯この教えを守って通ったのである。

*逸話篇とは、教祖が当時の古い信者さんとの生活の中で、身を持ってお教え下されたひながたを逸話としてまとめたものです。教理とは違い教祖の温かさや親心を身近に感じられるものです。今回は後々本席となられ、神様のおさしづを皆さんに伝えられた飯降伊蔵先生に対してのお話です。

《教会ニュース》

5月25日に中和おちばがえり団参があり、今治からは佐々木長行さん、矢野求さん、芥川隆さんが帰られ、兵庫県から宮本さん家族、おちば周辺からは親奥さん、二宮真悟さん、相原寛さん、会長の計11名が参加させていただきました。

次回の団参は夏のこどもおちばがえり、そして10月26日の天龍講団参です。次なる目標に向かって進ませていただきましょう。



編集後記

愈々梅雨のシーズンがやってきました。ジメジメとした天気が続く、暑い夏がやってきます。この時期がくると、子供おちばがえりのことを思い出します。暑い中パレードの練習に富田新港まで行ったこと。教会でみんなで食べたお昼のカレーなど。色々しんどい事もありましたが、今では懐かしい思い出です。

しばらくおちばに帰っていないので、今年中には一度帰りたいと思う今日この頃です。

(編集者K)